

●三浦地区保護司会より、「社会を明るくする運動 三浦地区作文集」をいただきました。その中に、海洋教育に触れた文章が見られたので、ご紹介します。

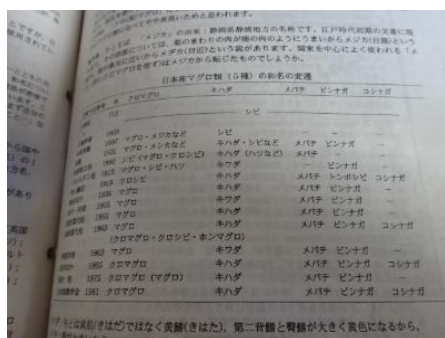
・小網代湾のアマモの実際を見学した剣崎小学校5年生の作文です。「私は、未来の小網代湾が、今よりも何倍も生き物たちが暮らしやすい環境になるように、自分にできることから少しずつ始めて、未来に、きれいな海を残していきたいです」同じく、剣崎小学校の5年生は、「私は、この江奈湾が見える学校で5年間過ごしてきました。窓から見える江奈湾がとても好きです。だからこそ、十年後も二十年後も、この江奈湾を大切にしていきたいと思いました」と書いています。



・名向小学校6年生の作文より。「ぼくは、『海を大切に』という心を常に持っていたいです」同じく、名向小学校の6年生は「私は、海洋教育をする前は、ゴミがすてられているのを見て見ぬふりをしていました。しかし、海の仕事をしている人の話を聞いて、海の大切さを知りました。この事から、海の大切さ、海洋教育の大切さをじっかんしました」と書いています。

・剣崎小学校の5年生の作文より。「これからも、私たちの海を大切に守るために、魚やカニなどの生き物やアマモに興味を持っていきたいです。そして、江奈湾や小網代湾の豊かな自然をしっかりと未来に送り届けたいです」

子どもたちの心に、海を大切に作る気持ちが育ってきているのを感じます。



12月21日(木)、観音崎自然博物館の山田和彦学芸部長が、三崎の下町でのコラボイベント「おしえて 山田先生」で、マグロについて、様々な質問に答えてくれました。文献上で、「マグロ」という名前が、最初に出てくるのは、1697年(江戸時代前半)だそうで、それ以前は「シビ」と呼ばれていたようです。マグロの心臓や背骨、延縄の針等も展示されていました。



今回は、クイズを一つ。水族館で人気のチンアナゴ(あの、砂から首だけ?出しているウミヘビの仲間)、たいへん臆病な生き物で、他の生き物が近づくと、すぐ砂にもぐってしまいます。では、水族館で、人間が近づいても、平気なのはなぜでしょう?

水族館関係の人には常識なのでしょうが、昨日、ある本に書いてあってビックリ。なんと、あの水槽はマジックミラーになっていて、チンアナゴ自身には、人間が見えないんだそうです。これからも、勉強を続けていきたいと、改めて思いました。

(文責 事務局長 渋谷)

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所 854-9443 まで